

2019年度山梨英和大学学位授与 学長式辞（2020年3月13日）

山梨英和大学人間文化学部を修了される皆さん、並びに山梨英和大学・大学院人間文化研究科・臨床心理専攻を修了される皆さん、本日は誠におめでとうございます。また、保護者の皆様、並びにご親族の皆様は大変お喜びのことと存じます。本年度は新型コロナウイルスの感染を予防するため、学位記授与式を中止することになりました。大変残念なことであり、学位記授与式を心待ちしていた皆様には、誠に申し訳なく、衷心よりお詫び申し上げます。

なお、学位記授与式で申し上げることになっておりました私の祝辞を皆様に文章でお伝えしなければなりませんことをお許し下さい。

私は、文章の冒頭で「卒業」という言葉ではなく、「修了」という言葉を使いましたが、「卒業式」は英語で Graduation Ceremony と言い、大学ないし大学院の終わりを意味しますが、修了式はむしろ Commencement Exercises であり、「新しい生活の始まり、新しい活動の始まり」を意味します。皆さんはどうか今日から新しい生活、新しい活動を始めるのだと胸を張って、実社会へ向かって羽ばたいていただきたいと思います。

さて、学位記授与式で宗教主任の高橋一先生がお読みになる予定でした、新約聖書のローマの信徒への手紙の第12章17節には「すべてのひとの前で善を行うように心がけなさい」と書いてあります。しかし、このことは、実はなかなか難しいことです。人間は弱い存在ですので、善いことをしていると人に見せびらかしたり、私はこんなに良いことを沢山していますと言いふらしたりする偽善（つ

まり偽りの愛)に陥りがちです。

ですからパウロは冒頭の9節で「愛には偽りがあってはなりません」と論じているのです。山梨英和大学には3つの校訓があり、その一つに「愛人」があります。愛人とは他者を思いやり、他者のために生きることであり、このことは偽善つまり偽りの愛ではなく、すべての人の前で善を行うよう心がける善い人として生きるということに通じると思います。

実は有名な経済学者のケインズもパウロと同じような言葉を残しています。

彼は、It is much more important how to be good rather than how to do good、いかに善をなすかよりも、いかに善であるかの方がより大事であるということです。つまり、ケインズは to do good (いかに善をなすか) よりも、to be good (いかに善であるか)の方が大切であると言っているのです。

「to do good」とは単に善いことをするというだけで、それは自然な善行ではなく、人に見せびらかしたり、損得計算に基づいていたりする偽りの愛になることもあるのです。

これに対し「to be good」とは、自分の存在そのものが善であり、意識せずに善い行いをする、すなわち偽りのない愛を行うことです。

本日、大学から実社会へ旅立たれる皆さんは、この「to be good」を目指して、羽ばたいていただきたいと思います。

但し、先程も申し上げましたように、このことはなかなか難しいことです。

しかし、最初は「to do good」に陥(おちい)りがちであったとしても、諦めずに徐々に自分を修めて、すなわち山梨英和大学の3つの校訓のひとつである、「自

らを高める自修」によって、「to be good」を目指して自分を成長させる努力をしていただき、実社会の中で立派に羽ばたいて下さい。

この「羽ばたく」という言葉は、別の言葉を使うなら「咲く」ということでもあります。ノートルダム清心学園の学長や理事長を務められた渡辺和子先生をご存知の方も多いと思います。渡辺和子先生のお父上・渡辺錠太郎陸軍大将が陸軍教育総監を勤められていた時、2・26事件で暗殺されましたが、幼かった渡辺和子先生はその現場に居合わせました。その後、渡辺和子先生はカトリックの洗礼を受け、シスター(修道女)になられ、教育者の道に進まれましたが、「おかれた場所で咲きなさい」という有名な言葉を残されました。しかし、同時に「咲けない時は、根を下へ下へと降ろしましょう」とも述べられました。皆さんが実社会の厳しい現実の中で、うまく咲けない時や、うまく羽ばたけない時もあると思います。そんな時にこそ是非、根を下へ下へと降ろしましょう。そうすることによって将来もっと大きな花を咲かせ、大きく羽ばたくことが出来るのではないのでしょうか。

私は皆さんが実社会で大きな花を咲かせ、大きく羽ばたかれることを大いに期待して止みません。

2020年3月13日

山梨英和大学 学長

菊野 一雄